

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0272600404		
法人名	株式会社渋田産業		
事業所名	グループホーム内山苑		
所在地 (電話番号)	〒039-4601 青森県下北郡大間町大間大川目37-1 (電話) 0175-37-5122		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月26日	評価確定日	平成21年12月23日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	9,000~冬期15,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 87.2 歳	最低	83 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大間病院(歯科含む)
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念には地域と家族の繋がりを大切にされた内容が含まれ、職員も意識してケアされている。また、どういふホームだったらいいか全スタッフで検討し、無視・強制・暴言のない介護を目指し日々取り組まれている。近隣にコンビニやスーパーがあり、徒歩で気軽に出かけられる距離であるため、買い物や散歩など楽しみながら行っている。また、社会福祉協議会や地域包括支援センター、病院等との関わりも深く、随時、報告・相談ができる体制がとられており、地域に根差すホーム作りを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	近隣のホームとは町村をまたがっているため、なかなか交流を図る機会をもつことは難しいが、職員同士の交流はあるため実現に向けて取り組んでいくことを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の際は、評価票をファイルに綴り職員からも意見を書き込んでもらっている。また、外部評価後の内容も職員・運営推進委員で情報を共有し、改善が必要な場合はそれに向けて話し対策を講じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	役場職員、認知症ケアの経験がある地域住民、入居者の家族2人、社協職員、包括職員などが集まり開催されている。会では、状態変化のみられる利用者の報告や現在困っている事、取り組んでいる事など様々な内容が話され、記録にも残っている。外部評価についても、活発な意見が交わされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	個別の近況情報は毎月写真付きで伝える事ができている。出納状況も併せて報告できている。ほとんどの方が月一回面会に来ているため、積極的に意見を伺うよう努めると共に、健康状態などは必要に応じて随時報告できている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	日々、近隣の商店などへ出かけ地域住民との交流が図られている。今年は近隣の特養でキャラバンメイトの講習を受けた職員がいるため、その方から受講する予定である。認知症の普及活動にも積極的に取り組む姿勢がみられる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と家族の繋がりを大切にしたい内容が含まれ、職員も理念を意識してケアされている。また、どういいうホームだったらいいか全スタッフで検討し、無視・強制・暴言のない介護を目指し日々取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示している。また、スタッフがいつでも見れる場所において意識づけしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日々、近隣の商店などへ出かけ地域住民との交流が図られている。また月一回、大間町包括支援センターの取り組みで在宅の脳卒中障害者「陽だまりの会」をホームに招き、利用者と一緒にゲームなどを楽しんでいる。社会福祉協議会も年に数回、ひとり暮らし老人と同行訪問し「ふれあいサロン」と称した活動で、利用者と一緒に口や体の柔軟体操を行っている。今年は近隣の特養でキャラバンメイトの講習を受けた職員がいるため、その方から受講する予定である。認知症の普及活動にも積極的に取り組む姿勢がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価の際は、評価票をファイルに綴り職員からも意見を書き込んでもらっている。また、外部評価後の内容も職員・運営推進委員で情報を共有し、改善が必要な場合はそれに向けて話し合い、対策を講じている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>役場職員、認知症ケアの経験がある地域住民、入居者の家族2人、社協職員、包括職員などが集まり開催されている。会では、状態変化のみられる利用者の報告や現在困っている事、取り組んでいる事など様々な内容が話され、記録にも残っている。外部評価についても、活発な意見が交わされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営やサービスに関わる事で分からない事があれば随時相談できる担当者がおり、気軽に相談できている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>社会福祉協議会からパンフレットをもらい全職員に配布している。また、外部の研修に参加し理解を深めている。参加できない職員にも伝えるよう、参加記録を残し閲覧できるようにしている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修に参加し、周知徹底できている。また、身体的な虐待だけでなく、理念にも掲げている”無視・強制・暴言”も念頭においてケアされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>書面をもとに説明し、家族からの質問にも適切に返答されている。また、入居前には自宅へ出向き、利用者との面識を持つ事で不安を緩和できている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホームの会報は年4回配布し、個別の近況情報は毎月写真付きで伝えている。出納状況も併せて報告している。ほとんどの方が月一回面会に来ているため、健康状態などは必要に応じて随時報告されている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が訪問した際、積極的に伺うようにしている。</p>		<p>家族が訪問した際は毎回ご意見などを伺っているがご意見等はほとんど聞かれていない。今後の取り組みとして、苦情だけでなく、小さなご意見なども聞き出せる工夫が検討される。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットが1階・2階と分かれ職員配置も固定しているが、異動の際は1ヶ月時間を設け全シフトを伝達してから異動するようにしている。新人が就いた時も同様である。また、ほとんどの職員がユニットを行き来しており、利用者にとっては全職員が馴染みの顔になっている。お互いが随時ヘルプできるよう、状況把握も日々連絡しあい把握できている。また、利用者も自由に行き来しているため閉塞感がない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や毎月の職員会議を用いて勉強会を開催している。勉強会の年間計画はないが、その時々に必要な技術や講義を課題に挙げ、職員同士で教え合っている。 新人職員には管理者が認知症について必要な知識を伝える機会を設けている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームの職員同士では交流はあるが、町村をまたがっているため、なかなかネットワーク作りをする機会をもつことは難しい。		他事業者との交流の場が増えるよう、結びつきの強い社会福祉協議会や地域包括支援センター等と連携し、サービス向上に繋がることを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には自宅へ出向き、利用者と面識を持つ事で不安を緩和できている。ホームへ入居してからも、馴染みの関係が構築されるまでは、家族へ協力を求め対応できている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴から得意な事を引き出し、日常生活の役割として活かせるよう支援している。また、畑仕事や料理の味付け、調理方法等、本人の思いに寄り添いながら一緒に作業を行い、楽しみを共感している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を用いて入居前の生活歴など情報収集しているが、家族からの情報が少ない方については入居後の様子や言動をもとに生活パターンを把握している。個々の生活スタイルを尊重し対応できている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族と関わっている職員の意見を踏まえカンファレンスを行い介護計画を作成している。</p>		<p>利用者の意向をくみ取った内容が少なく、職員のケア内容が主に計画されている。日々の利用者の思いや意見を聞き、計画に反映されることが望ましい。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のケア会議にて、プランが適切に実施されているか見直しされている。また、状態変化に応じて必要があれば随時見直しがなされ、家族へも報告している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>状況に応じて受診の送迎と付き添い介助を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大間病院が協力医となっており、受診が困難な時は往診してくれる。また、緊急時も駆けつけてくれるため適切な処置を受けることができる。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで終末を迎えた利用者はいないが、状態の変化に応じて協力医の医師や看護師が往診し適切な処置が行われている。 家族には入居前に、インフォームドコンセントと看取りの説明を行い同意書を交わしている。家族の意向を踏まえ終末を迎える体制ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋に入る時にはロックをする。言葉掛けについては、排泄など周囲に気づかれないよう別の言葉で誘うなど工夫されている。動作一つ一つ相手の立場に立って対応されている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	在宅からの生活歴を大切に、生活パターンを組み立てている。職員の都合ではなく、利用者の行動に添ったサポートをされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員と一緒に台所に立ち、楽しそうに調理・片付けなど行っている。食器棚には、利用者が分かりやすいよう置き場所が表示され使い易い工夫がなされていた。</p> <p>食事は職員も一緒に同じ物を摂り、明るい雰囲気楽しい印象を受けた。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>認知症が進み一人で入浴できない方や職員が1人で対応困難な身体状況の方がいる。安全に入浴して頂けるよう入浴日・時間を設定し入って頂いてる。また、希望があればいつでも入れるよう配慮できている。夏場は畑作業の後などシャワー浴も提供されている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>掃除・洗濯物干し・調理など個々に役割があり、率先して行っている。身体状況をみて出来ることを促し増やしている。外出する事が多いためか、化粧をし衣類にも気遣いを感じる。在宅生活の延長のような印象を受ける。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近隣にコンビニやスーパーなどがあり、徒歩で出かけられる距離にある。希望があればいつでも支援できる体制である。また、食材購入時も利用者と一緒に出かけ買い物している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアが周知されている。利用者の状態によって、やむを得ず必要になる場合には家族の同意を得ることとし、その旨を入居前に説明している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は施錠しているが、日中帯は解錠している。職員間の取り決めで、外に出て行っても無理に引き止めたりせず様子をみている。利用者の行動を制限せず、行動の原因を追求する事で不穏や興奮が落ち着き帰宅願望も緩和できている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時などの救助は消防・警察の他、町会長へも協力を求めている。最近、地域の消防団10名程が訪問しホームの避難経路や消防設備などを確認し万全の策を講じている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分摂取量を記録し健康状態を観察している。水分も嗜好品を取り揃え勧めている。また、食事も代替食等を常備し栄養が充分摂れるよう配慮されている。疾病でカロリーや塩分制限などある方については、医療機関の栄養士の指導を受けながらバランス良い食事が提供出来ている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいを励行し利用者にも定着している。感染症対策資料の整備や、感染症マニュアルを作成し周知できている。インフルエンザの時期には予防接種を行い予防されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内は適度に換気され、空気の淀みがなく快適な空間である。また、大きな窓からは適度な光が入り、カーテンを用いて遮光されている。小上がりやソファなどくつろぐスペースが用意され居心地良い空間作りがなされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた家具や雑貨類を持ち込み、しつらえている。家族の写真などもきれいに飾られ、居心地の良い居室作りがなされている。窓からは家庭菜園が眺められ、作物の成長が楽しめる。</p>		

 は、重点項目。